

福祉事業評価に関わる 3 層 D-Plus 評価マトリクスの提案

○ 国立保健医療科学院 高橋秀人 (008634), 重田史絵(立教大学・007279)

キーワード: 福祉事業評価・ドナベディアンモデル・3 層 D-Plus 評価マトリクス

1. 研究目的

現在わが国は「未来投資戦略 2018」(2018 年閣議決定)に従って、「Society5.0」[データ駆動型社会]への変革が進められている。また科学技術に焦点を当てた「統合イノベーション戦略 2019」(2019 年 6 月 21 日閣議決定)が進み、例えば(1)成長戦略実行計画¹⁾、(2)成長戦略フォローアップ案²⁾、(3)令和 2 年度革新的事業活動に関する実行計画案³⁾:(令和 2 年 7 月 3 日)、(4)未来投資会議 2018⁴⁾、等で将来設計が提示されている。しかし残念なことに①高齢者、②障害者、③生活困窮、貧困、福祉等については、それぞれ(1) 成長戦略実行計画案では①高齢者 5 か所、②障害者 0 か所、③生活困窮、貧困、福祉等 0 か所、(2) 成長戦略フォローアップ案①17、②7、③12、(3)令和 2 年度革新的事業活動に関する実行計画案①36、②12、③26、(4) 未来投資会議 2018①23、②12、③2、しか触れられていない。これらの中で、高齢者や障害者、生活困窮者を含めた方々は、社会的自立が期待されており、行政側には、事業の達成度の評価指標 KPI(key performance Indicator)が定められている。しかし KPI は事業達成度の評価で、残念ながら、住民がどのように変わったかというアウトカムの指標にはなっていない。そのため本質的に対象者の社会的自立が達成されたかどうかというアウトカム指標を用いて評価することは重要である。

ところで福祉に関する対象者への働きかけ(要因)は、制度(行政)、施設(サービス)、本人の周りの協力・本人の努力など多種にわたり、その結果本人の行動・活動が変わる(結果)という構造になっているために、要因と結果の全体像を俯瞰することがむづかしい状態である。本研究ではこの状況を「見える化」するために評価マトリクスを導入することを目的とする。また生活困窮の場合に関して例示する。

2. 研究の視点および方法

Donabedian が開発した「医療の質モデル」ではストラクチャ(Structure)、プロセス(Process)、アウトカム(Outcome)の 3 概念を用いて、ケアの質を評価することが提案された。日本の行政においては事業成果としてアウトプット(Output)を用いている。ここでストラクチャとは設備、人、組織などの外的インフラ情報、プロセスとは事業の過程すなわち、どのように事業を行うかという情報、アウトプットとは事業結果で外的に変化した情報、アウトカムとは対象者の本質的な変化の情報となる。

また事業はその規模ごとに分けて考える方がわかりやすいため、その実施主体ごとに、マクロ(行政)、メゾ(施設)、ミクロ(個人)の各レベル(3 層)で行うことを考える。このとき評価は 3×4 の評価マトリクス(3 層 D-Plus モデル評価マトリクス)で見える化できる。

3. 倫理的配慮

本研究は、研究の全過程、成果の公表において『日本社会福祉学会研究倫理指針』を順守した。また共同研究者の承諾も得ている。

4. 研究結果

	Structure (設備, 人, 組織) 外的インフラ	Process (過程) どのように行う	Output (事業結果) 外的に見える変化	Outcome (結果, 個人の変化) 本質的な変化
Macro (行政)	行政事業に関わるインフラ	事業プログラム	プログラムの達成度評価	事業プログラムによって個人変化の生じた割合等
Mezzo (施設)	施設目標に関わるインフラ	施設プログラム	施設プログラム達成度評価	施設プログラムによって個人変化の生じた割合等
Micro (個人)	個人を取りまく環境インフラ	個人の目標に至るための努力計画	計画の達成状況	個人の目標の達成度等

評価マトリクスのマクロ(行政)のストラクチャ,プロセス,アウトプット,アウトカムはそれぞれ、行政事業に関わるインフラ、事業プログラム、事業プログラムの達成度評価、対象者の変化の割合等、メゾ(施設)は、それぞれ施設目標に関わるインフラ、施設プログラム、施設プログラムの達成度評価、対象者の割合等、ミクロ(個人)はそれぞれ、個人を取り巻く環境インフラ、個人の目標に至るための努力計画、計画の達成状況、個人の変化の有無、というような情報が入る。

例、生活困窮者を対象とした3層 D-Plus 評価マトリクス、は下記のように考えることができる。(1-1)マクロ(行政) ストラクチャ：保健福祉部,地域包括ケア課,社会援護課,保健センター,等,(1-2)マクロ(行政) プロセス：自立相談支援事業,住居確保給付金,就労準備支援事業,等,(1-3)マクロ(行政) アウトプット：就労事業への参加割合,自立相談支援事業の新規相談受付件数,就労支援対象者数,等,(1-4)マクロ(行政) アウトカム：地域で、生活自立,社会的自立,就労自立等,行動・活動の変化生じた人の割合,等。(2-1)メゾ(施設) ストラクチャ：〇市福祉協議会,生活介護施設,等,(2-2)メゾ(施設) プロセス：個別支援計画の作成・実施,等,(2-3)メゾ(施設) アウトプット：個別支援計画の達成度,等,(2-4)メゾ(施設) アウトカム：地域で、生活自立,社会的自立,就労自立等,行動・活動の変化生じた人の割合,等。(3-1)ミクロ(個人) ストラクチャ：家族,友人,支援者,地区担当者(民生委員 保健師),等,(3-2)ミクロ(個人) プロセス：個人目標の作成・実施,等,(3-3)ミクロ(個人) アウトプット：個人目標の達成度,等,(3-4)ミクロ(個人) アウトカム：個人の行動・活動の変化の有無,等

5. 考察

事業評価として Donabedian のストラクチャ,プロセス,アウトカムを基にし,日本独自の行政評価であるアウトプットの概念を3段階の層(マクロ(行政),メゾ(施設),ミクロ(個人))である「3層 D-Plus 評価マトリクス」を用いることは評価構造を俯瞰し「見える化」することで、これはわかりやすく表示できることから事業評価等において役立つと考える。

1) 成長戦略実行計画案(2020), <https://www.kantei.go.jp/jp/singi/keizaisaisei/miraitoshikaigi/dai40/siryou1-1.pdf>

2) 成長戦略フォローアップ案(2020),<https://www.kantei.go.jp/jp/singi/keizaisaisei/miraitoshikaigi/dai40/siryou1-2.pdf>

3) 令和2年度革新的事業活動に関する実行計画案(2020) <https://www.kantei.go.jp/jp/singi/keizaisaisei/miraitoshikaigi/dai40/siryou1-2-2.pdf>

4) 未来投資会議 2018 https://www.kantei.go.jp/jp/singi/keizaisaisei/pdf/miraitousi2018_zentai.pdf